



▲先生の指導で親子そろってみるみる上達

8月5日(木)、市民活動センター「のぼりん」で『のぼりん文化講座「親子お琴教室」』が行われました。

『のぼりん文化講座』は、市民活動の参加を促すため、市が登別市文化協会と連携し、年間を通してさまざまな入門講座を行うもので、今回の講座には6人が参加しました。

参加者のほとんどが、琴に触れるのも初めてでしたが、登別三曲協会の高田寿美久さんと山口井教蘭さんの手ほどきを受け、30分ほど『さくらさくら』が弾けるまでに上達。参加者は琴を弾く楽しさを体感していました。

のぼりん文化講座「親子お琴教室」

『さくらさくら』
上手に弾けたよ

8/5

白石市の児童と 楽しく交流

ふるさと豆記者交流事業

8月3日(火)、鷺別小学校で『ふるさと豆記者交流事業』の交流会が開かれました。

この事業は、登別市と姉妹都市・宮城県白石市の小学生が、歴史的にゆかりのある相互のまちを理解し、交流を図ることを目的に、平成4年から行っているものです。

今年も、白石市の小学6年生6人と引率者2人が鷺別小学校を訪問。はじめに、同校の6年生が鷺別子ども獅子舞を披露し、白石市の児童を歓迎した後、記念品の交換や、両市の歴史や特色などを映像を交えて紹介するなど、交流を深めていきました。

8/3



▲記念品を交換する白石市の小学生(左)と鷺別小学校の児童(右)

母国アメリカから 登別の応援を約束

外国語指導助手エリカ・クームスさん離任

7月26日(月)、昨年7月から、市の外国語指導助手を務めたエリカ・クームスさんが、小笠原市長へ離任の挨拶をしました。

エリカさんは、主に、市内の小学校での外国語授業のサポートをしたほか、文化・スポーツ振興財団が行う『初心者英会話教室』の講師を務めるなど、地域活動にも積極的に参加してきました。

エリカさんは、この1年間を振り返り「人が優しく、生活しやすいまちでした」と話したほか、今後は、母国アメリカの大学院に進み、経済関係の勉強をする予定であることを話しました。

また、関係者約70人が参加して行われた送別会では、市長からふるさと大使(鬼大使)が委嘱され、今後も、アメリカから登別を応援することを約束してくれました。

7/26



▲小笠原市長からふるさと大使を委嘱されたエリカさん